



繪本甲越軍記三編八

2258
32



遠 13
2258
92

油



繪本甲斐軍紀三編卷之八

目錄

武田右衛門義統信首服之事

右即義統信元服之事

栲原合戦之事

栲原陣押之事

小笠原長時深志岡城之事

原義濃守助系と家之事

武田信玄加増出陣并原入道勇働之事

日本書紀三編卷八目錄



繪本甲越軍記三編卷之八

武田太郎義信前服之事

曾子曰父母之愛我... 武田太郎義信前服之事... あり信玄の愛も深く今年既十五歳...



原義濃守寺院と焼拂の圖

加崎合戦之事

河中島討陣之事

柴田周摺守名言の圖

濃場が旅館、母利勢切の圖

信玄木曾乱入并濃場討死之事

日武軍記三編卷之八



田舎の町

太郎 義信
元服の
圖



日走屋



美弐輝卿義時卿の子初名義高豆初家十四代より上の一字と綴り一車車叙叙小小けりり果果張張

六
六

者者とて信信玄玄孫孫小小悦悦比比孫孫小小天天氏氏二二十十三三年年四四月月信信則則二二出出陣陣ああるるとと既既に
陣陣觸觸あありり結結わわちち郎郎義義信信功功陣陣のの用用意意ををわわりりてて吉吉日日良良辰辰とと撰撰れ
旗旗をを二二掲掲げげりり儀儀式式にに依依りり飲飲留留兵兵部部少少輔輔虎虎呂呂遣遣とと看看てて見見るるにに不不信信
信信玄玄悦悦比比孫孫小小武武器器とと虎虎呂呂二二あありりてて天天時時武武勇勇のの名名將將ああるるにに
ととてと飲飲留留兵兵部部とと結結わわりり小小幡幡入入道道日日意意系系美美濃濃守守入入道道清清岩岩山山本本助助助
入入乃乃道道鬼鬼のの四四人人とと例例をを呼呼びび信信玄玄自自身身をを砂砂とと取取りりてて郎郎義義信信のの血血をを
下下さされれ又又馬馬場場民民部部少少輔輔内内政政後後理理正正飲飲留留兵兵部部三三郎郎玄玄清清喜喜日日輝輝正正以下
のの功功臣臣列列位位とと各各盡盡力力賜賜ふふ信信玄玄がが右右兵兵部部とと愛愛しし武武徳徳とと賞賞めめりり
給給ふふ車車とと人人皆皆威威ととああるる

結
木更

甲
越

結
木更
搭
梗
原
合
戦
之
事

夏中信濃國深志の城主小笠原大膳吉長時が祖と元武田家
兄弟として逸見冠者義清の子孫あり武田を嫡流おれども
代甲州の遠鄙に任じ小笠原を庶流おれども代々源家と近
倉右大將頼朝々々東代々武名天下小栗とら義の師範と元
祖お換り長清六代の後胤從三位信濃守貞宗足利將軍尊氏卿
上洛の時隨順して忠戦と御其後義満の治世の時四海泰平
おあり武を盛と色くく義満を尊と大退とのと可ま
去る間代々の武將小笠原とる致有く養と天下小輝一信濃守
宗の代に至り信玄が曾祖父武田信昌一縁結して骨肉同胞の好
友とるごうごう信玄長時時代の代々信玄の年指の色と成り互
境と成り近に上校入道謙信村上義清おれども義清の信州

還任し事寄信州と討從へんと謙信小笠原と内通し一年二月
武田中略へ出張せられりとも武田家の武威日と逐々盛ん
おれりおひの外信州も小笠原とるごうごう信玄の年指の色と成り互
落磯して越後を走る官領職と長尾の謙信へたる
移じ上州國と治るる於ては武田小笠原の御代々信州の
と恩堀り謙信軍と上州より上り上杉先方の者共と引付去る三月
より小笠原氏と合戦あり信玄其處と見澄しあり
年々越後勢信州より小笠原の事あり信玄の御代々信州の
小笠原と攻手と信州指授あり押出さるる押への勢と重
備中々其利を南門射候三郎を清射馬場民部お捕内後修理
正喜日彈心の又將より間常陰を萩示弥九度小棧治所を南門



甲斐守の陣

五

拮搜原
陣押
み園



甲斐守の陣

四

野武平村後右衛門子川孝後守今内弥左衛門小幡弥宗左衛門成
牧伴惣吉吉畑伯耆守小幡又前左衛門西卷監物二月弥左衛門廣瀬郷
唐門三科肥前守曲瀬左衛門猪子又飛西卷又左衛門上野孝後守
孕石原左衛門和岡加助渡辺三左衛門志村又内照石又監物二月孫平
近弥左衛門今福求女左坂又内左衛門外紀又保助左衛門誠石
皇水川又左衛門飯崎長左衛門渡部右衛門川井八左衛門川井
治郎左衛門外紀弥八郎約次新左衛門今井清八郎長崎守七郎平山
出羽守川崎七郎左衛門徳田布之助兩又左衛門時崎江左衛門時崎
布右衛門廣沢又左衛門小倉又郎左衛門小幡周備守河野丹後守乃
守又助左衛門形民部左衛門本郷駿河守所田吾津神宗園書上泉
伴惣守米倉丹後守島津加賀守須田系惣左衛門横田駿河守

奥平濃守菅沼新三郎三浦右衛門助同兵部守右水本不道
齋と姓勇士猛士是小従い信玄と山本徳宗又日向系秋山若回
諸前等の諸大將と後へ孫い既又拵棟系又押孫小公左系大膳
右丈長崎と一左家江間治部少輔又基合身刑部少輔以下三子佐
人拵棟系小馳向い又月六日兩陣互又出向や否誤炮と二斎小打ら又
る程こそあれ煙の下より咄と進と入退つあつた戦い向が勢
火水とありと戦へとも武田勢の猛威と敵一難く竟小公左系不方
戦い負六百七十九人討死し江間治部少輔刑部少輔遠く深志と近
所れハ大膳又又怒り今ハ勝負と一時又変口んと軍勢の絶と
其勢四子又百餘人翌七日拵棟系又押出向と供と揚つと
兩勢一存小廻合と否得異と関以奥齋又関汗馬東西と

日武重記三浦系

旗旗南小入乱を矢炮の響に殺伐の声天地と轟く山川と鳴
 動くる事唯百子の雷は一音は落るるごとく
 今日と唐の思ひ定む車もれば長時と弛ゆる
 ちくれば切も痛きだ敵討車只草と雜る
 るる味方の負死人と踏越殺声と励し命と
 比し我先小と突進めば飲する場内春日は
 され多負死人数は若とあはれ
 曲淵庄左衛門全丸跡左衛門志村之内應三科肥赤亦踏止
 我武三ヶ所と夢の怖るて引退く大將長時大少競い戦い
 勝るぞ信玄の旗本は切へ坊主の頭と弄はせんと頻ふ士
 卒と励し武田の旗本は切へんとに耳利左衛門尉を遊軍とめて起

味方け出るごとく遊軍の働き時つらりと競かる
 勢とろろ小引受敵百の矢炮と一音小おろろ黒煙天と霞し其
 地と轟く地と轟く地と轟く地と轟く地と轟く
 撲入る突入る猛威と影し実倒せは長時が旗本勢撲入る突
 崩され足並去らるゆあふ見く敵留妻日馬場内藤が勢其利
 勢が撲入る入る引退く攻討中の一隊と世と大に小引
 承是と引受を先とせし挑合中の中も江間治部少輔足利と
 昨日の孤軍と雪人と戦うるの戦へは長澤大和守孫井掃部赤
 首を攻守も一足も引退くと自らも下りて戦へは武田が大に
 各々疾と勢あり思へば右佐左佐と乱るる大將大膳と史
 長時と矢弛ゆる一箇と切て大音の中知し義と勇む者ら討起し

敵

譽と子孫に傳へて一區も引あくと烈義拵揮一ち力と馬上に接
 して遠くを拓く者として堅割小一を付老兄引遠へ拵通し一
 形れ彼不中變化一馬武者四騎と切て落し一歩士武者七人と討
 倒し血戦おしく多お碑くれ一うも宿まきる小公三系大將の
 働にも助けど深志とこして引返け長時も珍方おく致兵引き
 られ本城より引返り三科肥前も飯沼長左衛門猪子也鹿等三十餘
 人長時が後と追ふ中小も三科紀元守敵兵お突拵し長時と迫近
 拵毎二五三小突くふと長時を力してお拵し三科が陰行拵し
 お折電光の如くおちかると三科身と沈ん拵拵し一こ強つるは
 打れ場り得て大地中層長時も陰面お蒙り一お上敵拵
 襲て追われれば三科と討ま及びて深志の城へ引入る今日甲辰

敵

勢へ討つ首一子四百九十三級あり

小公三系長時深志開城之事

小公三系大膳を文長時と拵捜系の合戦し打負深志の本城より移り
 敵寄るまうバ討死せんと覺悟しつゝ待下し聖十日信玄破拵の
 勢いと震ひ深志の城と十重二十重小石圍急小攻迫付と只昼夜
 と急攻圍とす攻寄るべき勢いとす一城をと旁とせられ形民部亮
 赤門河野丹後と城中子送て十入られく武田小公三系河内見光
 の家とす一も年看小及び干伐と初れ武の時勢ありと果其城
 其骨肉の人と殺す忍びど長時城と開返さるお拵大
 敵小及びいんやと言とあしくすれは長時答へ運馬拵拵
 と控よ討死せん武の本意あれども果代の緒士と殺し拵んと

敵

長時が心を不だざれば恥と凌ぐ諸軍の命小撫る球兵と助命ありは
 速小味と明後とべしと紀清文と取替し長時諸軍と率いて球
 と出より多信を日向大和守昌時と深志の城代と至る小長時
 當家の幕下小属し終るゆふ不領と進どべしと再二玄道ととれ
 とも當り許容あり同内と冷ふ大悪無道の信玄と我突と隙伏
 世人や肖よく悪逆不義の積悪已と妻と家運忽ち小龜園家を
 失ふ事踵と廻るゆふとどと義と宗と信州とと攝州并川小
 至る一家あれば三好修理を家長と頼と二十四年の暮秋と送る
 二三好家滅亡の後永祿十二年小弒と漂寄し上杉入道謙信と頼
 滯留する事十六年天正十二年陸奥國小弒終るゆふと小津黒川
 の環とて家人坂西とと者小害とれ終るゆふと痛くさみあり

看

たい

元

原美濃守勳氣と信守事

武田信玄と小笠原と攻むし終りてより武蔵強大あり謙信
 出張の要害として信州川中島の内清時が敵は城と築く山本及鬼
 繩張し終八十餘日小曾清忠と成徳と海津の城と号し小田
 信中と昌辰との曲輪小市川梅中と与左衛門尉と入玉小室の城あり
 五月彈正と並行の同年極月甲州あり津去宗法と後々人と勅あり
 一つは是中保依る者弱法華信者の者も多し津去宗法は
 一つはこれ法華宗の僧徒と小傍り同日津去宗の寺小結文けて
 宗論し事強かりこれ承美濃守虎胤入道清宗と法華
 の信者あり一つは法華宗の方人し津去とと焼拂ひ傷と脱後
 追と信とと法とと制法と背き條其罪輕とと

甲

米^ノ穀^ノ同^ノ大^ノ戦^ノと^レ所^ノと^レ物^ノ得^レ他^ノは^レ又^ノある^レ者^ノあ^レれ^レ死^ノ罪^ノと^レ恩^ノ免^レ有^レて
 不^レ領^ノと^レ不^レ領^ノと^レい^レは^レ馬^ノ場^ノ民^ノ部^ノが^レ痛^ノ肉^ノ最^ノ修^ノ理^ノ山^ノ飲^ノ留^ノを^レ部^ノが
 捕^レ心^ノと^レ副^ノ兵^ノ渡^ノ入^ノ道^ノと^レ護^ノ送^ノを^レせ^レて^レお^レ州^ノ小^ノ南^ノ系^ノ入^ノ道^ノを^レし^レれ^レ小^ノ系^ノ
 左^ノ系^ノを^レ文^ノ氏^ノ原^ノ系^ノ弓^ノ矢^ノの^レ知^ノ識^ノと^レ得^レる^レと^レと^レ大^ノ系^ノ小^ノ系^ノに^レ係^レる^レと^レ而^レ州^ノ
 食^レ度^ノ一^ノ扶^ノ助^ノせ^レし^レま^レる^レ

武田信玄加増出陣英系入道勇働之事

天文二十三年小系左系を文氏原今川治部を義元獲捕及び
 尾州の小回と総助武威強大中て又今川義元と屢合戦有れが
 義元お尾兩州の大敵と受く難有る中武田家小系と乞小係と
 信玄今川小力と海に於て三月軍勢を引く留士の大交過しり厚
 系におく出賀時ノ押島加藤下野さか居不と本陣は用ひらる小系

左系を文氏原同嬭子氏改出陣りる先陣と松回尾張守を系左系
 守小系常陸助志水大道を以下と率ひ天香久山は旗本と居入
 勢の川端は軍勢と信らる甲州の先鋒を馬場民部お捕小山田
 弥三郎は馬場が組助大武成牧仔焼を平村最左衛門子川を後
 中合九弥左衛門小幡弥宗右衛門の間常陸守小幡次郎右衛門等
 又十餘騎は小幡八道日意が組友松将監加増援助安井越井戸
 森平等十餘騎は將七十人合せし七百餘人先は係と係は西陣は
 奇正の備を揮出と圍と撃とせし子槍の兵卒を得物く
 と引揚吐と喚く討か重たは難右小討活先より火と教し
 と挑戦を差小原美濃も入道と信玄の勳氣と受小内系も有て
 小系家小仕へが緋糸の獲小月ノ經入スむりある前立おる



原義濃守
 寺院と焼
 拂小園



日走軍言三編卷八

汁池地

鮓

教

甲斐軍言三編卷一

兜のき向小原美濃守平虎胤入道清岩と多眼入ると備前小
着あ一發の馬の長六寸むらありふ淡掛地の鞍着く小作候し
餘よると歩せ山崎山崎入道が保よ向と先尔と亦笑小幡がよき入
からんよ西の方小馳むい小山田弥三郎信茂が陣中向て切て入
小山田の系が倅と馳し馳し如何は壯士等今場中小進む武者ハ
儘よ系序胤入道とてそれ馬との骨柄遣着の見事さ備表へ
系切る波お天晴の形勢あり丸あやま字名せしと云ぶ士年等ハ系
が武者振と感と馳合さんといわ者なく皆服と瞬もせぬ又物て
存する不運者何系といへる浪人武者修好の為緒團と廻り廻御
の勝へるが世川州小あり今日小山田が備と傍と居るうーが原
入道と目小致る名を召いさんと三日修りけ大を刀と名銀丹浦

印

ちやう

66

乙

副る声小名系と一陣小驅出流流目がけ討くろ清岩先
と笑い優き進者な拳動る清岩が清小うろろと編巻の
雁小押へ下中と備を力と接く討くかる受つ流つ戦ひが清
石一声喚くととるが磐石も碑けし中おを刀小進者兜打
進より首の骨小舞を去る小切の流石大別れの進者其疾弱
ふくもま力と打振るに物程ひとおてうろろ清岩續いぬは二
お三打のられば進者上小堪りばど美運極はるを本と原由
はんとよある武州の佳人と田原六郎進者が首と挿んとるより
下まんととる奴入る声と掛破者と川州とて入るが方へも折ら
しる者ありけ其怪しうして助ててとて進者も打拵三人おつ
まぐしと引る勢天晴一人男子の勇士とてうろろ

田越軍記三編卷一

五

加崎合戦之車

係ふ不す小田系の先備へ松田尾張守等系統登守が勢の中に
 大別の者と争つく唯六騎進み出細乃以ま所をり蹄せ出小き
 塚小池上り伴ふ所大に松村七左衛門殿系系頼貞志村ま八郎と名系
 味方と睨み起し一ふ小幡山疎入道が子をま信二十一歳救後の功
 名と系一威状十一圍と得る勇士世者等が不敵の者初とて
 那一不業ありと只一騎馬と飛せ捨とま信の家小池上り瞬く信
 小志村ま八郎と実く落し又騎の敵は後り合比声と殺しるは
 踊りせ獅子奮迅の怒りと影り追つ暮の籠合一ふ小幡が中り然
 井孫四郎者左衛門と助けるま火水と成く戦ひが亦ま信
 虎の吼るが如く露をくり透南あく伴ふ所を大文殿系系頼貞志村ま八郎と名系

下小突落と松村七左衛門大と勢の敵と名く引退人とも又ま信
 飛多の如く飛り重揚卷付の板より引けり角先へ突入り又
 二人と討とれば又ま信が中り然井孫四郎者左衛門も孫ふ人と討
 捕とり一小田系方の松田系系系三百餘騎等と相合と山疎入
 道是見く亦ま信討と名續やり三百餘騎の中へ諸道と合せ
 喚り入馬場民部の陣是取看る小幡又子と接へと馳せれば小系
 志水大道寺が勢を松田系系と助けり討てり里あ合後ち刀の輝
 電光と如く雲間と照し馳遠ふ人馬喚り叫ぶ聲波の声と
 上天下地と徹し馬場勢を大武子川を後ち合九弥左衛門小
 幡が組中り友松田系加之持り助安井然井戸の勇士系勢とと
 切くぬれば松田が徒兵古都合十郎孫ま十左衛門小幡が徒兵とら

都く喜吉た信門就鳥巢在鹿神戸十を史あんと一人當子の勇士
 あれば右小當りたゞ難端と削り火花と散し挑戦小山岡孫三郎
 勢と廻し大道寺の勢の中刻々入を三三小突崩せば大道寺勢
 堪へどして北を強ぐ馬場が勢を益系勢は咬付て烈を戦ひたれ
 ん益系勢も堪へ得ど堪へられ程小松岡小條が勢も俱崩れし
 り新屋川と打渡りて放走し小條が小將大橋備中も桑系を
 射川中にて取と降し米降と揚り守五世のや下知とる不へ小幡入道
 退まり川中ふて大橋の弛まきくを三と組付揉合あがり水中小幡と
 落懸つ組れつ争ひ一が小幡三固面の小幡と争あがりおろし竟は大橋
 と水中小幡取て押首と控り弛上り米降とどく引退し小幡又も
 も後弛は強まり桑系た信門射が引不と新屋川のわふて退付る

系うけて弛かき桑系も取て降した右方猛勇の壮士あればおのけ
 拂へ付入接声と励し互小ニテ所の疵と争あがりちかの月灯も
 小働たし取て果小のさ組人とちかと大地は投げ捨て聲と
 つけ引組合別力と出東やくと組合しか亦も法が力やけり
 りん桑系と下小引あき首と撥同し米降と海々分捕と軍
 も教トくれ各首級と実檢に入る信玄も場小幡小山岡が戦功と
 稱し互小陣と張り馳合々不小強州隙漏さの雲海和尚と音
 徳寺の長老とち肉敷の兄カク今川の一旗あれば此和尚有
 り備國于伐と動さん車甚恐るへく其上小條今川好はは
 不今突係る車小乃ふべきやとて三家互小和睦と調れ信玄の
 嫡子右即義信と意く今川治部少輔義元の聲小契約あは

田邊直記三編卷八

四

扱

詳

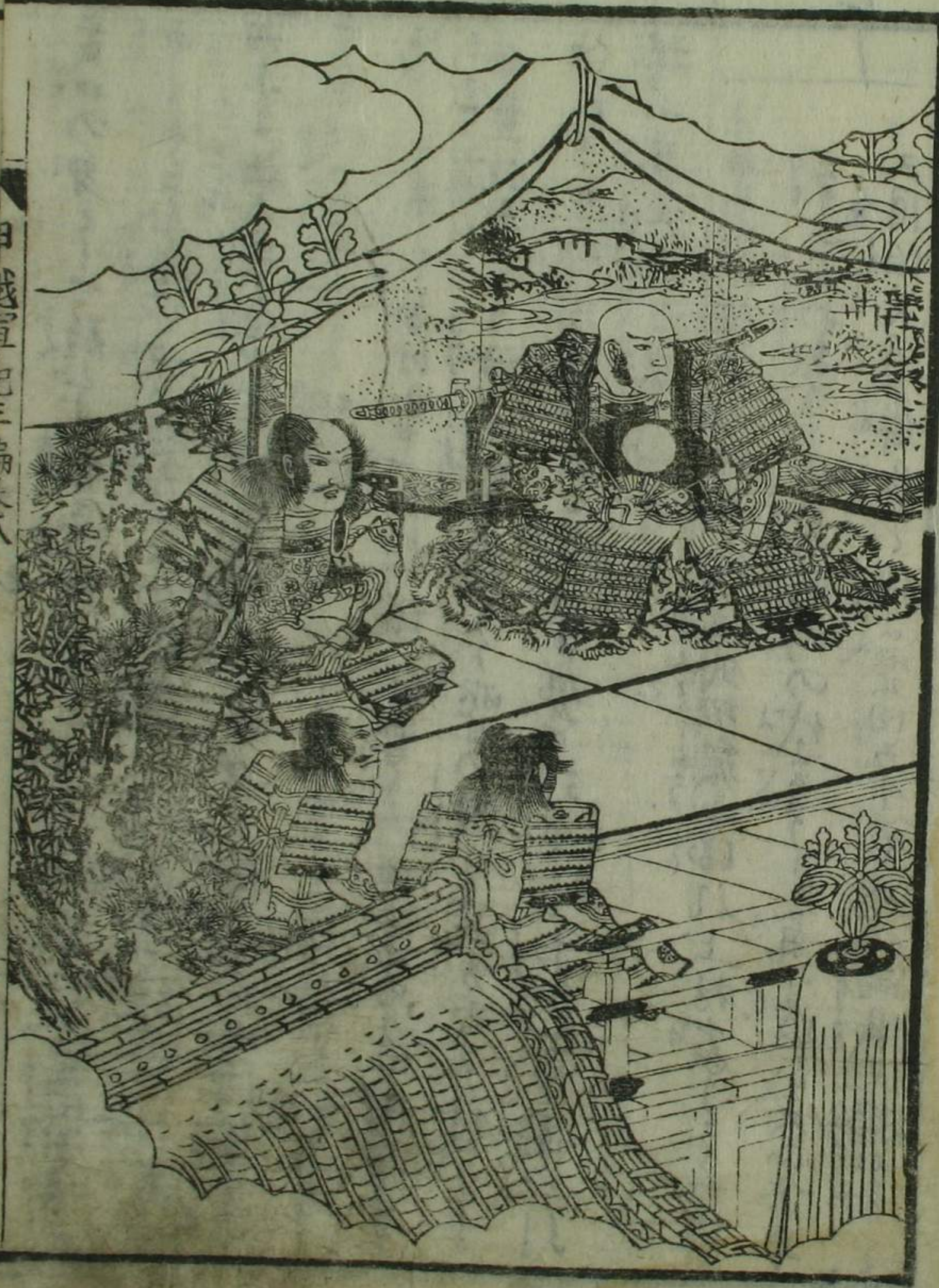
惜

義元の息上総助氏美と小条左系を丈氏原の智とて氏原の婿
 氏政と信玄の婿小との約束ありて和儀お調ひ武田小条今川
 三家合陣ありて三方陣と引拂く本國小幡陣あり此度三場民
 部小幡景政魁とて軍功と抽んで今川家より懇勸の書
 と馬場系政小送りと又小幡入道同又多信入子と戦他は
 ありと信玄駿河と小入孫い一砌加島に於て百貫の所領と
 小幡亦信に加恩あり弘治二年小三方旗河東入取ありて
 小條氏原系美濃と入道清岩と不らありてこれバ氏原深
 也孫入も詮方あり清岩と甲州に送りとる

河中以討陣之事

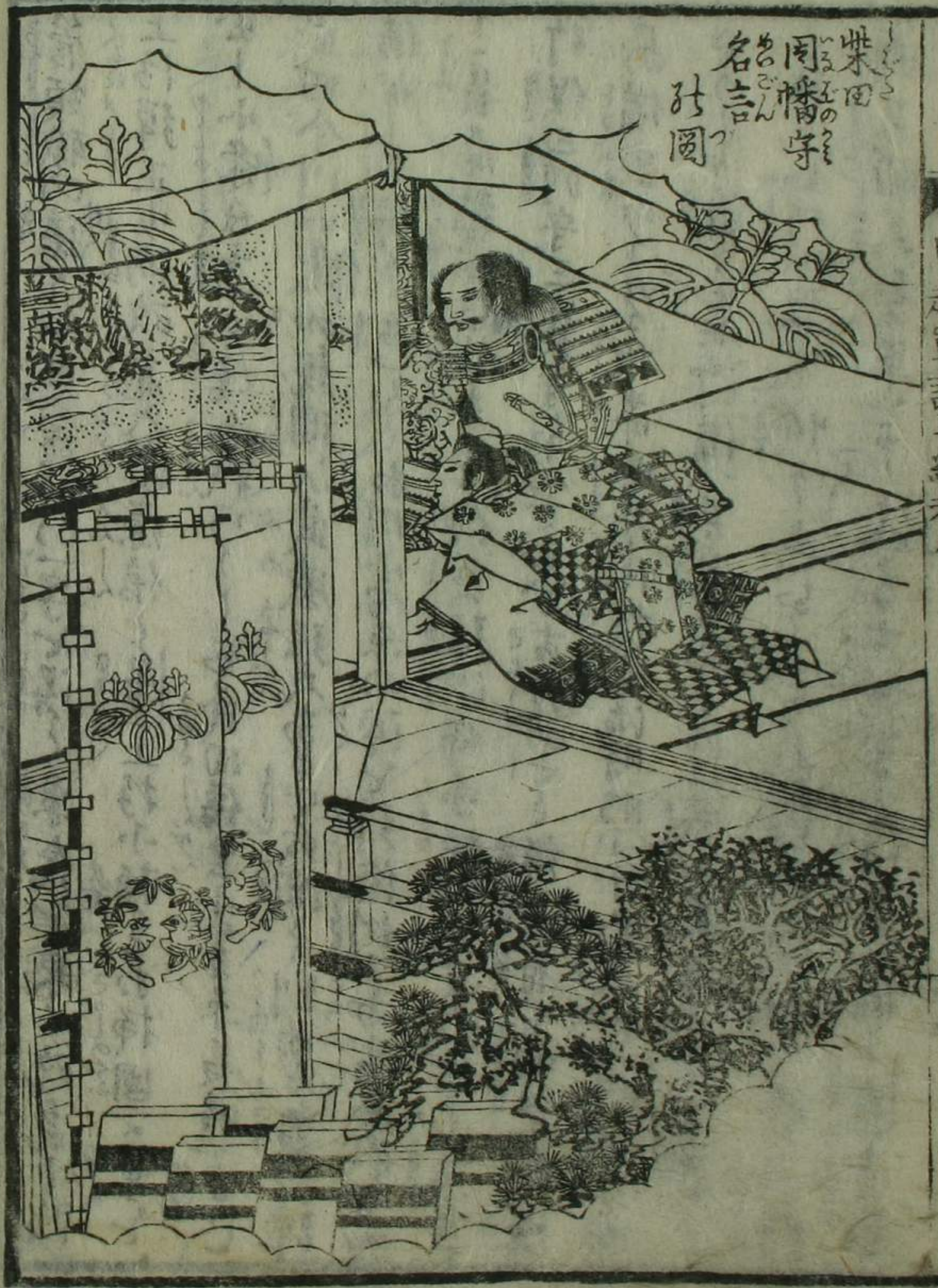
越後の長尾景虎と去年上杉民部を備憲政より上杉の性

管領職の譲りと要憲政の一字と得て系虎と更く政虎と改
 上杉弾正次彌政虎入道謙信と号し上杉小頼とお掎國軍と
 出し小條氏原と屢合戦ありて武田信玄小笠原長時と比
 武田今川小條和親細い武威強大ありて別働隊の謙
 信ありも怖る色なくお州小幡系の陣と引信州に打出合戦
 と長尾越前守政系守佐英駿河守子坂討馬場加治安藤を
 竹俣三河守三寶寺おんどとる古老の士と評議有て明日お州除
 の備定ありて折部柴田同幡守治時助小十又歳謙信が例小幡
 ころい進み出陣準備甚だしくいばい麻呂古老元是小幡
 といぬら如何小幡や怖る色なくこれバ謙信大少怒り孫小幡
 斬甚推系あり事と中とのる古老等と得失と論し寔に死と



甲起
三編
六

柴田
同播
守
名
言
子
圖



甲起
三編
七

美口の身にて難く条奇怪ありと云う移ひたれば柴田周備さ
 かしと云う頭と地小付たひて只今某小沖の由と錫り以杜若小
 因京に強入氏原が先後仕城後流の隙口と付中へい世沖備定小
 て々何の苦もなく切落し酒匂川より世方へ謙信を討たせり
 以てと事もあげおちたれば謙信怒り沖田安あつて周備ちが
 益量抜野あり汝が中不至極なり明日の殿々其方小中付へ
 作りうたれば周備守たはねむる勢と引率一お州と堅固小引
 拂ふ其体勇くあつてうりり
 柴田周備守治時成人の後武功服小勝れ上杉家へ一ニと
 争ふたおあり一が懸勝郷の代に至り一氣小遠い天正十一年
 八月伯父道壽存と俱に柴田五十君崎の両城に揃筆を

は 方上橋竹本川八幡等して翌夏合戦はは三年目小の洛
 城に深月毛と云ふ名馬小三匹又寸の元重がた力にて切
 り出救騎と切伏討死を其に翌夜く出く怪とあるは車甚
 冷車々世書の後編は出せり深月毛と云ふ白月毛乃
 るの尾と繁と小苗と混ト引半半程にて紅く成後々
 真紅の糸の如く雪より白れたるのを遅く尾髪を知るれば
 甚見事あると云ふ事あり其乱小井筒女之助其る
 と分捕りて系あつると云ふ
 大く
 爰小村と義清が幕下樂岩寺右の助依右近を和向布下等々
 先年武田小属し幕下ひらるが四将と慕ひ謙信が義房と威
 和州に子隠謀と企て執凌小内通りりれば謙信表切の約と定め

天文二十三年六月信州川中崎へ打出菅光寺の東山に陣し後人は
武田信玄是とみく急軍勢と率ひ桑摩山に陣し後同九日
謙信使番へみく武田家こゝ遠くをり明日河川中崎へ出勢し
清野の宿と故火をききちやれ聖十日謙信一万三千餘人を率
清野へ押出さる信玄も越後の使の方と聞ゆいつて清野に燒
拂りてきりやて馬場民部少輔景政三百五十騎と兼共二千又
百の勢と遣は清野より相へ出流し川と桑小當山に道鬼が
傳ふ所の必勝微妙の備は山麓をて武威と張り相へり謙信
又積り給ひ素より良將あり其後其れとあり給ひ大軍と
みくも場が三千又百の勢と掛合は給ふ人殺し引揚る謙信が
明智の舉動流石ありと信玄も威下給ひ謙信を清野の宿へ

事

怪 敵

燒がると急念し思ひ給ひ又虚空藏山の峰と攻べき由を遠くをり且は
餘留馬場小嶋と姑め武田の諸將をみくも越後勢と死地へ入きて
一人も残さば討取ん事此時ありと勇戦びつれ信玄深く思ひ
相へり謙信は之の智將か最後の敵と受へ所一筋ある切所をみくも
いふ事ありつれは必死怖れ謀りつれと見たり努め謙信峰と攻む共
後より相送るるはと蛇の物物えんとみくも嚴敷制せられ相つらく
思ひつる小舟岩さ布下等が侍とむれ思ひつれ餘留馬場小嶋
の魁め小舟岩さ小舟倉られ虚空藏山の道へ思ひ者と仕備と嚴
重くして勤まれば謙信も給方あり度代より引揚り虚空藏山の
道へ押通り信玄の本陣桑摩山の麓目の下ありと志しつれと
おせ菅光寺の何方を引取らば一体武田勢と屠ともせむ形勢

甲 62

673
甲
起



十
燭

瀬場が旅館
耳利勢
切入図

甲起軍言三巻



天晴勇あつらんと云々い其夜その多小山たこやまの面道めんどうと忍しのんで通とほるもの
 り武田たけだが直す者もの此この体ていと見みるよりお園おのの志しと云々いおや否いな依よる足あし輕かろ十
 方たより馳せ寄よ有あるを云々い彼者かのと云々い取とりて搦なめ飲のみ届とどく陣じんは連
 陣じん無な部ぶの陣じん彼男かのと引ひ出だす懐中くわいちゆう探たんし一箇いっかんの書しよ翰はんと書かけて本陣ほんじん
 二款に信しん去き見み珍ちん少せう思してい楽らく岩い布ふ下かへ謙信けんしんより彌やの密みつ
 書しよあり其陣その略りやくあれいと謙信けんしんと切き不ふ出だ我陣われと欺おし引ひ出だす狭せま
 陣じんと殺ころしあつとて反間はんかんのお石岩いし寺てら在ある助すけ依よ存ぞんを進しん布ふ下かお田
 四よ人にんの切き腹はらと命いのちせらる謙信けんしんと善光ぜんくわう寺てら小こ又また日ひ追お留どめあつて四よ人にんかたを
 と結むすぶとも吾われ信しんありれば相あい事ことありければ珠たませられさるあは
 とて越後えちごの陣じんありければ信しんも勢せいと用もち變へんじと陣じんされり
 信しん去き本陣ほんじん乱らん入い入い瀬せ場ば討う死し之の事こと

武田信玄たけだのしんげんと諏訪村上すわじま小笠原こしかげとて信州しんしゆ大方たうほう小属せうじゆく一いっ共どもはも
 大馬頭たうばとう義昌ぎしやう嶮あ嶮あと輕かろ之の要害やうがい小この筆ふで上かみ移うつ謙信けんしんと謀ま
 合あせし後のちいづれが信しん去き本陣ほんじん小こ又また殺ころ向むかあつとい思おもへとも謙信けんしんが出陣しゅつじんと
 急いそ之間のち者ものと云々い越後えちごの勅しやく靜せいを聞きく謙信けんしんは及陣およじん陣じんの後のち勢せい
 とお明あし又また出だして小糸こいとと戦たたかひといいはすは信しん去き本陣ほんじん小こ又また殺ころ向むかあつと
 後のち小本陣こほんじん小この陣じんと小地こちは瀬場せばと云々い文宗ぶんしゆの危あやしむる
 獲と取とる双ふたの將しやうあり本陣ほんじん小属せうじゆく一いっ堅固けんこ小城せうじやうと持もちりれば先渠せんきと云々い
 之の人と板坂いたさか法印はういんと瀬場せば同どうある者ものありればと板坂いたさかと云々い瀬
 場ば又また作しよ入いられ属じゆく下か小糸こいとれあは瀬場せばの地安堵あんどの上かみ小信州せうしゆとて
 一いっ那なと送おくるべしと種たねく小説せうせつゆれば瀬場せばと板坂いたさかが独ひとり亦また一いっ款かん
 是本陣ほんじんと云々い武田たけだ小属せうじゆく一いっ其後そのち天文あまのふみ二十四にじゅう年ねん正月しげつ年ねん始はじ

敵

繪本甲越陣記三編卷之八終

二
あ
あ

池

と秀徳のち子越後の間者馳其く鎌信河の中へ出張ありて其のい
 屋根系は栗系た清門尉多田路と狭し信玄も河の中へ出張
 あり互い小足軽と出し一見夜に迫合せし敵の處と伺ふも名
 將智將の對陣ありて一は遠もつとこれ信玄も其討て
 と討て陣とて鎌信も経方あり越後よりと討てひい一は八月
 信玄又屋根系を出張ありて本角が配とてひい一は八月

屋根系
あ
あ

地
あ
あ

あ
あ

の参賀として用州に出仕し大蓮寺小幡教と揚い其本
 勤助と密談ありて瀬場の上杉小幡これお本曾と退治せし
 大なる妨ありて其利左清門尉小令せし其本曾小大蓮寺と
 取圍りて其の討てられぬ瀬場頭とて大なる信玄と取圍り
 車のに勝りて其後或百十三人接連して出其利勢と火
 と敵して血戦と其利勢烈しく考討て其強別の兵清き近
 敵と切拂ひ敵く小戦も多勢の兵士小茶後と圍れ重創敵系
 と蒙りて討たれり後兵等も思ひく小働に同ト松と討死し
 ころりる瀬場討死してられぬ本曾と討小幡あり三月七日
 信玄燒と率い本山越後川と押せりお井崎と打越し屋根系
 番陣し此地は岩と築たせとてとて小して本曾が本陣と改

敵

繪本甲越陣記三編卷之八終

之邊賀とて用州に出仕しければ大蓮寺小旅籠と傷み其折山本
 勤助と密着のり瀨場家上杉小賺これお本曾と退治せし
 大なる妨ありと其利左衛門尉小令せし其折俄小大蓮寺と
 取圍と競り討たれば瀨場頭と退治せし其折信玄と取
 軍のに傍とてや至後武百十三人接連と切て其利勢と火
 と敵とて血戦と其利勢烈と考討共強別の兵清き近寄
 敵と切拂ひ敵と小戦と多勢の兵士小茶後と圍れ重創敵と承
 と承あつて討たれば後兵等も思ひく小働に同ト松と討死とては
 ころり多瀨場討死とてなれば其とて本曾と討小妨とて三月七日
 かと率い本山暫川と押せりお井時とお頼とを根系と
 此地は世石と築たきと退治と小して本曾が本陣と攻め
 と考詰あり本中越後の間者馳走と縁信河の中へ出張ありと
 根系と栗系と本門尉と田路とと議し信玄も河の中へ出張
 あり互い小足軽と出し日夜と迫合と敵の處と伺ふも名
 將知自將の對陣ありとこれ遠もつとこれ信玄も其討死
 と討て陣と引縁信も経方と越後と引と引ひしは八月
 信玄又根系と出張ありと本曾が本陣と退治とては八月



二のり

屋敷



日走軍言三編卷八
 此地は世石と築たきと退治と小して本曾が本陣と攻め
 ころり多瀨場討死とてなれば其とて本曾と討小妨とて三月七日
 かと率い本山暫川と押せりお井時とお頼とを根系と
 此地は世石と築たきと退治と小して本曾が本陣と攻め

